



"The Natural Power of Plants"

日清オイリオグループ株式会社 (TSE:2602)

当社の強みと中長期戦略

2024.2.29

The Nisshin Oillio Group, Ltd.

日清オイリオグループ株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

久野 貴久 (1961年10月29日生)

1985年4月 当社入社
2006年1月 当社加工油脂事業部長
2014年6月 当社取締役
2017年6月 当社代表取締役 (現任)
2017年6月 当社取締役社長 (現任)

(重要な兼職の状況)
Intercontinental Specialty Fats
Sdn.Bhd.Chairman





INDEX

1

当社概要のご紹介

2

2030年度に向けて目指す姿

3

中期経営計画達成に向けた施策

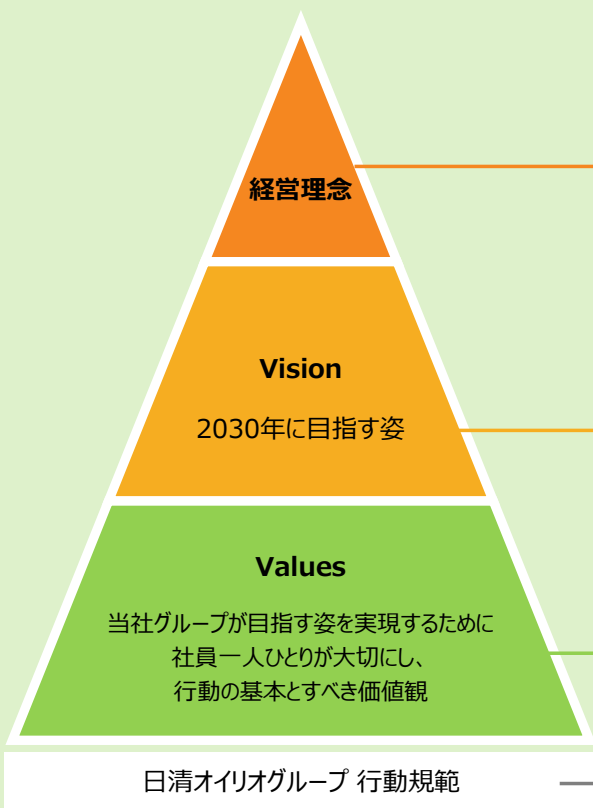
4

APPENDIX

01

当社概要のご紹介

日清オイリオグループ 理念体系



経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活（Wellbeing）」を提案・創造いたします。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

コーポレートステートメント

“植物のチカラ”[®]

Vision

私たちは、“植物のチカラ”[®]と“油脂をさらに究めた強み”で、食の新たな機能を生み出すプラットフォームの役割を担います。そして多様な価値を創造し、“生きるエネルギー”をすべての人にお届けする企業グループになります。

Values

真摯な姿勢

つながる

究める

切り拓く

しなやかに強く

5つのValuesについて

当社グループは1907年の創立以降、製品の開発・生産、品質、お客さまへの対応などすべてにおけるきめ細やかな「真摯な姿勢」と、モノづくりを起点に発展してきた企業グループであるからこそ根付いた、人が「つながる」チームワークと組織力を大切にしてきました。

これらに加えて、当社グループが2030年に目指す姿（Vision）に至るために、次の考え方をこれまで以上に大切にします。

- 当社グループの競争力の源泉となる強み、すなわちコアコンピタンスである油脂を「究める」こと
- 多様な価値を創造するためには、未知の事業領域や、展開地域、技術領域に挑戦し、新しい領域を「切り拓く」こと
- 変化が激しい時代に向かっていくなかで、変わらなければならないものと変わってはいけないものがある。すなわち、変化を受け入れて変わる姿勢と当社の良さを変えない姿勢を併せ持つ、「しなやかに強い」適応力
- 様々なネットワークとの「つながり」を活かし、これまでよりもっとお客さまの近くでビジネスを展開すること

「真摯な姿勢」「つながる」「究める」「切り拓く」「しなやかに強く」の5つのValuesを行動の基本とします。

理念を実践していくための行動指針

油脂

油脂・油糧



家庭用食用油

加工油脂



チョコレート油脂



パーム加工油



業務用食用油

加工用食用油

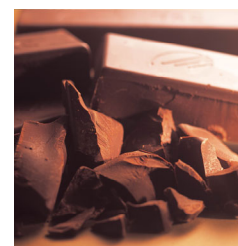


マーガリン



ショートニング

加工食品・素材



チョコレート



調味料（ドレッシング）



MCT関連製品

ファインケミカル



化粧品原料

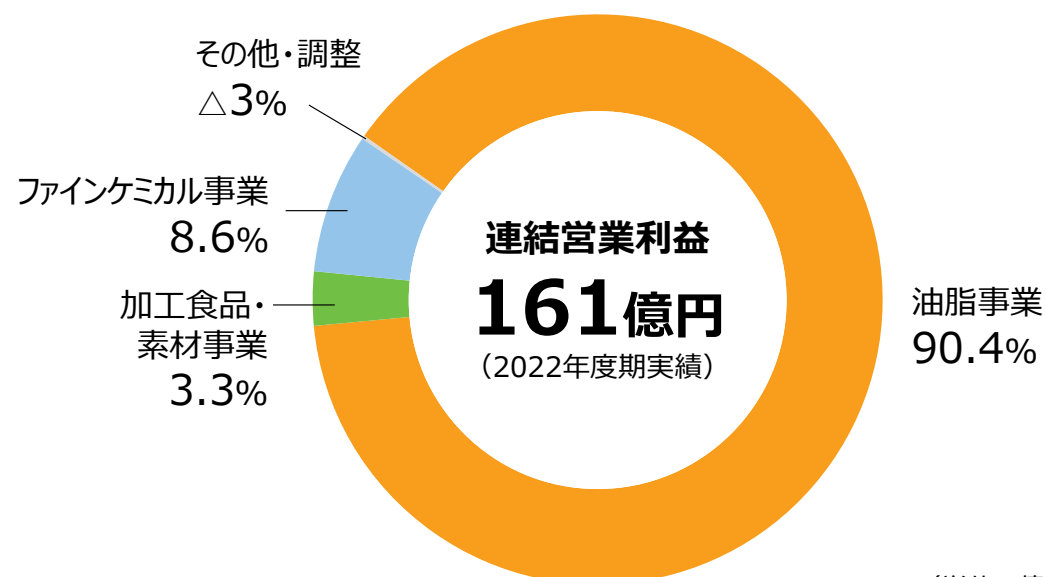
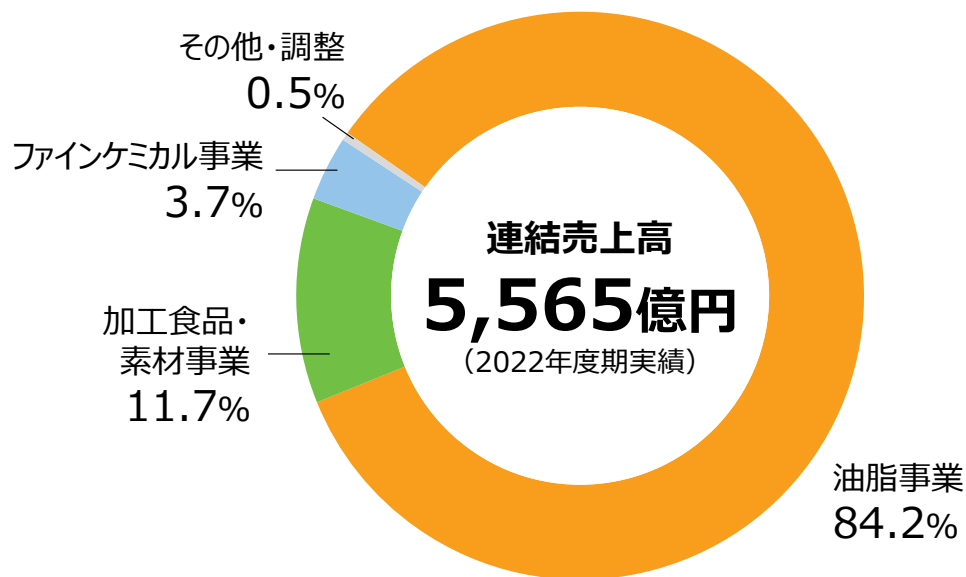


食品機械用潤滑油



アルコール
除菌剤

3つの事業領域（売上高・利益構成比）



(単位：億円)

事業名	事業内容	売上高	営業利益
■ 油脂事業	■ 油脂・油糧事業	家庭用・業務用・加工用食用油	90
	■ 加工油脂事業	チョコレート用油脂／マーガリン／ショートニング	55
■ 加工食品・素材事業		チョコレート／調味料（ドレッシング）／MCT関連製品	5
■ ファインケミカル事業		化粧品原料、環境・衛生	13
■ その他・調整			△3

グローバルトップレベルの 油脂ソリューションを提供できる 強固な事業基盤を保有

Marketing

培った技術と
強固な信頼関係を
ベースにした市場創造力

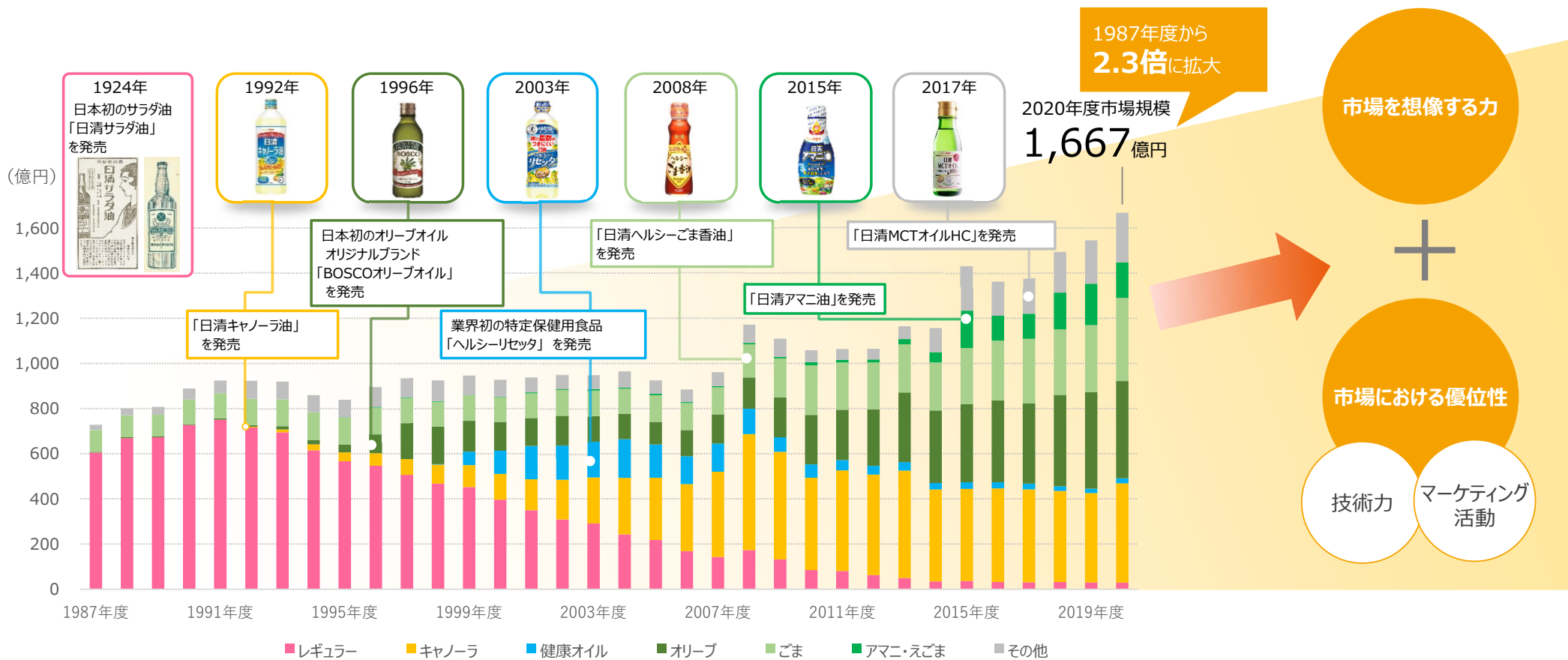
Technology

- 世界トップレベルの
油脂技術
- 顧客ニーズを実現で
きる製造技術

Globalization

- 日本 & グローバルで
強力な営業ネットワーク
- 海外での拠点拡充

新製品投入により新たなマーケットを創り、市場全体を拡張



※出典：インテージ社SCI（カテゴリ定義は当社独自の分類を使用）

油脂をコアコンピタンスとした研究・技術・商品開発の広がり

おいしさ

油脂加工技術、おいしさ評価技術など



様々な食品の中で油脂が果たしているおいしさのシクミを研究し、他の素材との共創による“おいしさの意図的創発”を追求

健康

栄養評価技術など



脂質や植物タンパクを活用し、様々な世代が抱える健康課題や一人ひとりの体質・体調の改善を通じて、当社らしいヘルスサイエンスを追求

コアコンピタンスの
“油脂”を究める

環境

植物資源の循環利用技術



生産工程における廃棄物の再資源化・副産物の有効活用化、環境負荷の少ない容器・包装や工業用途での植物油の利用促進に向けた開発を推進し、環境負荷を軽減

美

高品質・高機能な化粧品を実現する油脂技術



化粧品に求められる発色やツヤのよさ、耐水性を、安全で高品質、独自の機能を持つ油脂で実現

Globalization

日本&グローバルでビジネスを展開する生産・営業ネットワーク

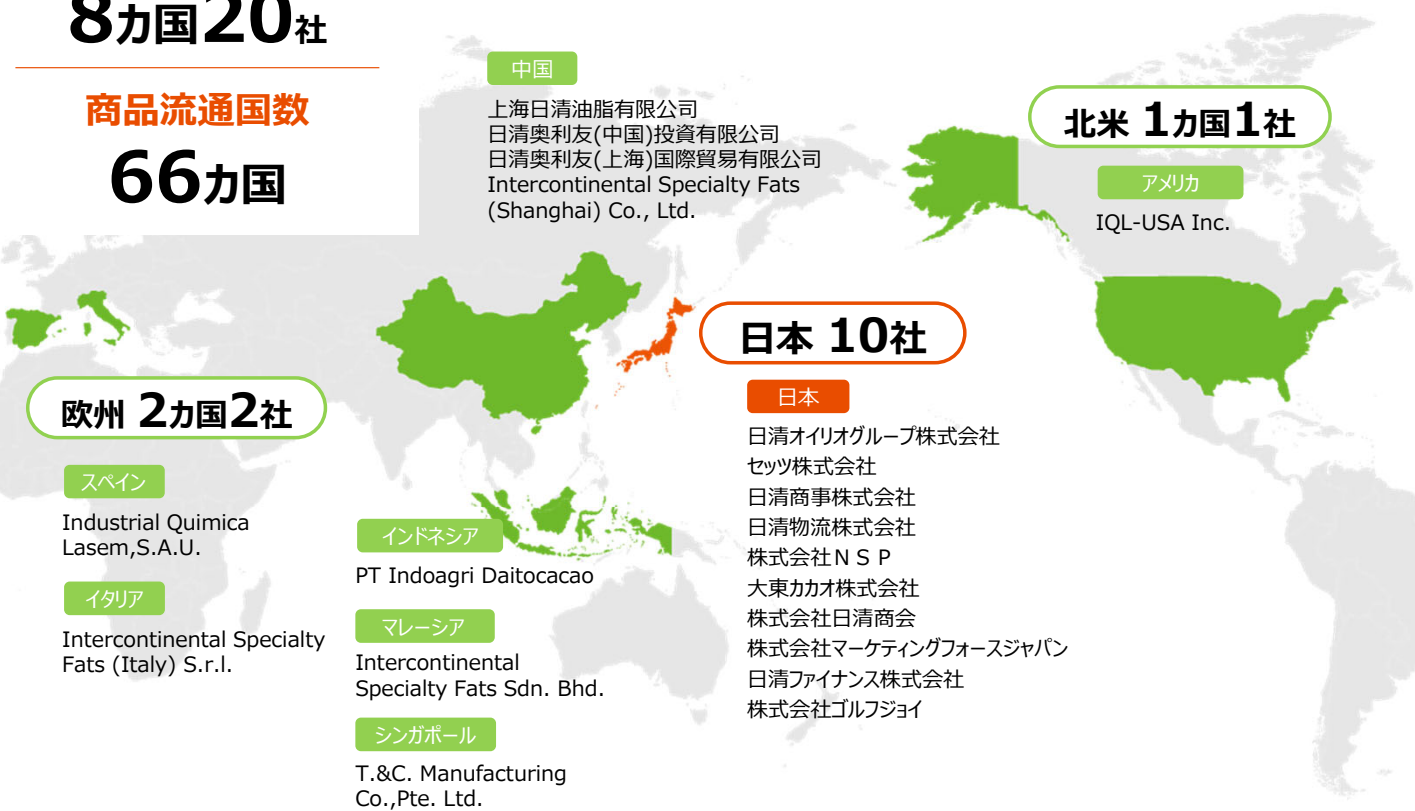
世界に付加価値の高い商品をお届け

主要拠点数

8カ国20社

商品流通国数

66カ国



国内

食用油市場で圧倒的な存在感を示す
植物油のリーディングカンパニー

国内油脂の販売シェア

35%

海外

グローバル市場でも存在感を拡大

チョコレート用油脂の
世界シェア※

9%

化粧品の原料油脂
世界シェア※

9%

※ 当社推計

※拠点数、グループ会社は2023年9月末現在

成長の軌跡



商品発売の歴史

1907年
日清豆粕製造（株）
創立

1924年
日本初のサラダ油
「日清サラダ油」
を発売



1951年
食用油ギフトセット発売



1963年
横浜磯子工場の
創業開始



1980年
純植物性マヨネーズタイプ
調味料「日清マヨドレ」を発売



1992年
「日清キャノーラ油」
を発売



2002年
日清製油（株）、リノール油脂（株）
ニッコー製油（株）が経営統合、
日清オイリオグループが誕生



1996年
日本初のオリジナルブランド・
オリーブオイル
「BOSCOオリーブオイル」を発売



2012年
「エネアリン」を発売



2015年
「日清アマニ油」
「日清ヘルシーオフ」
を発売



2017年
「日清MCTオイルHC」
を発売



2021年
「日清やみつきオイル」
を発売



提供価値 (共有価値)

- 野菜の生食文化の普及に寄与

- お中元、お歳暮文化の普及に寄与
- 大量生産によるお買い求めやすいサラダ油の提供

サラダ油のある
食文化を創出

- コレステロール、卵を気にされる方も食べられるマヨネーズタイプ調味料の提供
- 揚げ物品質の向上に寄与

油脂と調味料における
選択肢の提供

- オリーブオイルの普及・定着化に寄与
- 特定保健用食品の発売により健康に貢献

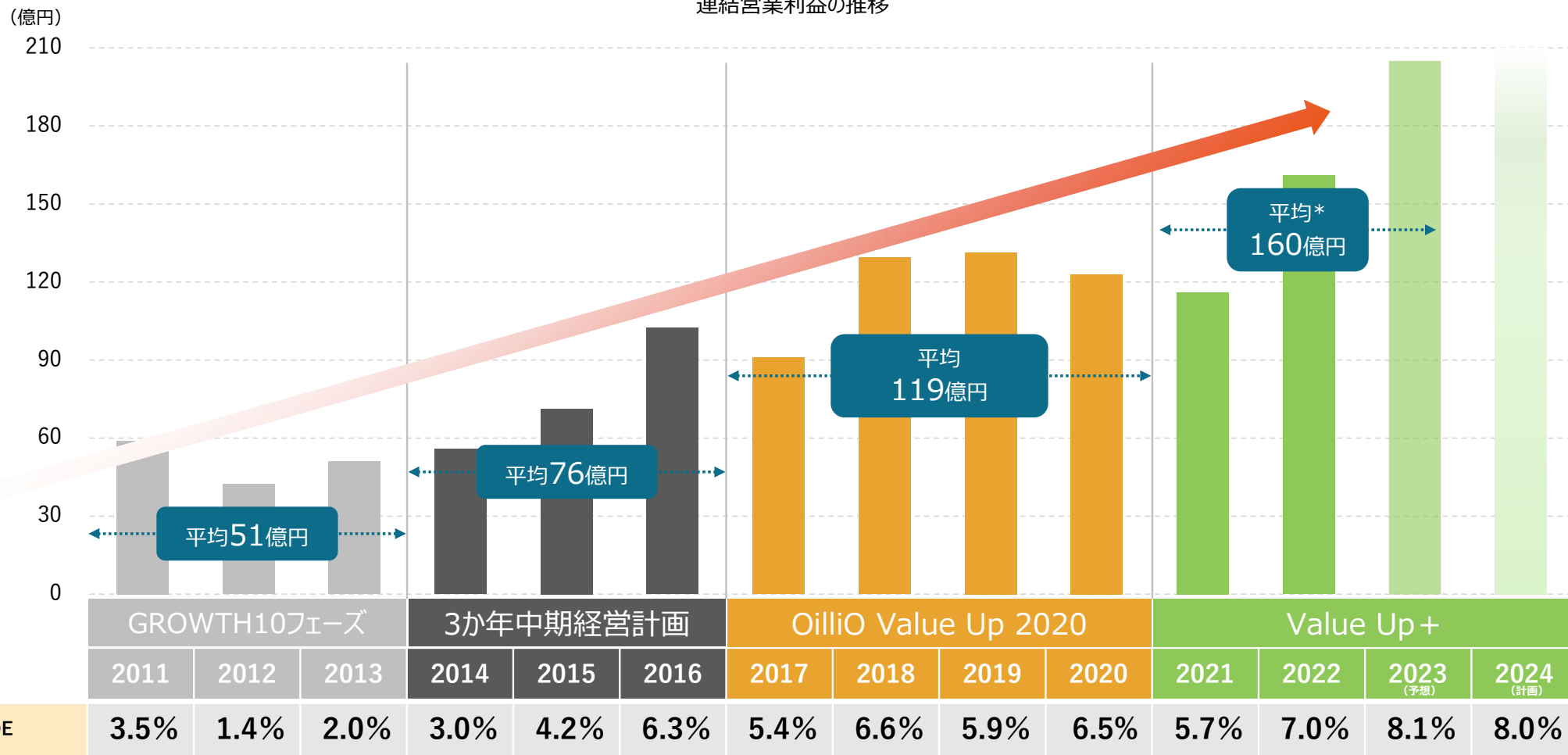
商品に使い方や機能性などの
情報を加えることによる食生活への貢献

- 高齢者・要介護者向けエネルギー補給・低栄養対策に寄与
- 新たな食べ方・摂り方の提案により食の手軽な健康性に寄与

商品ラインアップの拡充による
多様なニーズへのお応え

10年間で「稼ぐ力」が伸長、さらなる成長へ

連結営業利益の推移



*2024年度業績計画は策定中のため3か年で計算

株主還元

配当方針

- 安定配当を継続することを前提に、**中期経営計画「Value Up+」の最終年度である2024年度に向けて、配当性向40%を目安に株主還元を実施する**
- 企業価値向上に向けた積極的な投資による利益成長と、資本の有効活用による収益性向上の成果を確実に株主還元へ反映する

株主優待

100株

1500円相当の
当社製品の贈呈



200株以上

3000円相当の
当社製品の贈呈



*写真は昨年度の優待品

02

2030年に目指す姿

資本の有効活用による収益性の向上

2030年に
目指す姿

私たちは、**植物のチカラと油脂をさらに究めた強み**で、
食の新たな機能を生み出すプラットフォーム※1の役割を担います。
そして多様な価値を創造し、“生きるエネルギー”をすべての人にお届けする
企業グループになります。

基本方針

これまでより「**もっとお客さまの近く**」でビジネスを展開する

2030年度
経営目標

ROE ※2

10%

ROIC ※3

7%

ROE
最重要指標として位置づけ、資本の
有効活用による収益性向上の取り組
みを追求する。

ROIC
ROEの目標値達成に向けて、利益と
資産効率の両面から各事業領域のマ
ネジメントを強化する。

経営目標設定のポイント

- 直近2年間で歴史的な油価高騰により、
売上高が急拡大。また、今後の売上高、
営業利益率水準も見通せない状況を考
慮し、2030年の経営目標はROEおよび
ROICに設定
- ROEの目標値は“10%”とし、各事業
領域で収益性を向上するうえでのROIC
の目標値は7%に設定
- 目指す増益幅の水準は営業利益300
億円を想定。そのための価値創造および
収益性向上の取り組みを進めていく

※1 プラットフォーム：土台や基盤、環境。ここでは当社が持つ強みを活かし、他の食品
メーカーや素材メーカーなどが参画し、共に新たな価値を創造できる仕組みのこと
※2 ROE：親会社株主に帰属する当期純利益 / 自己資本
※3 ROIC：(税引後営業利益+持分法投資損益) / 期首期末平均の投下資本

方針

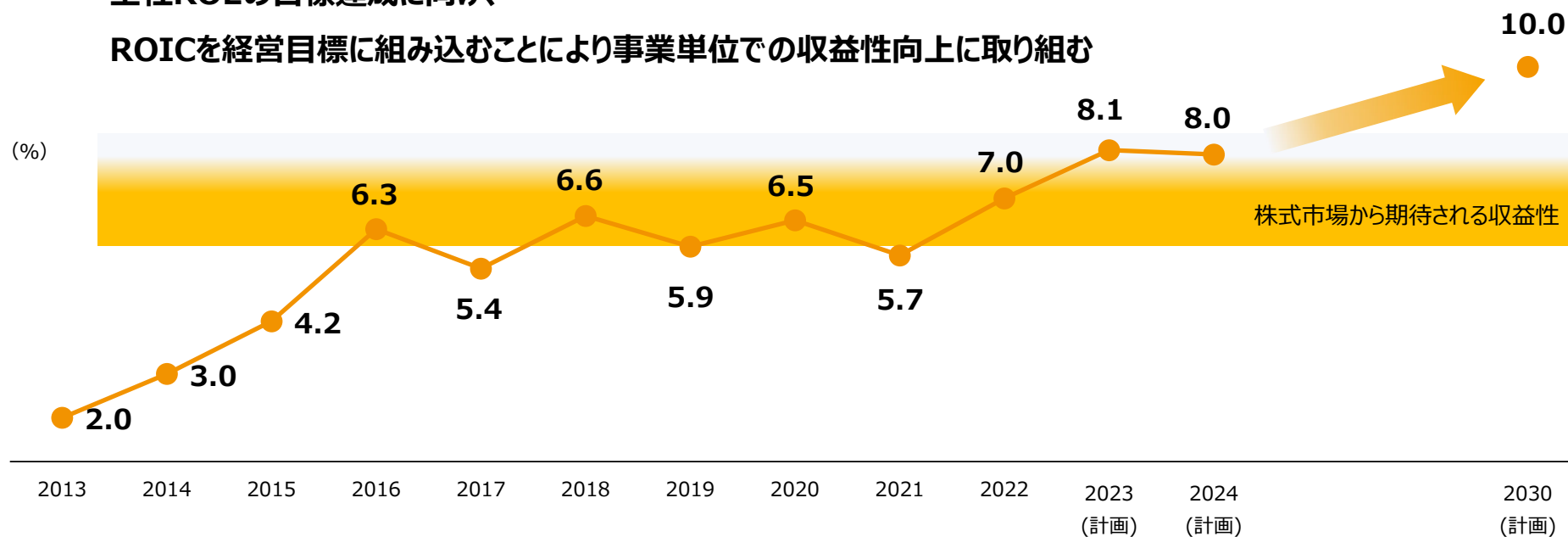
株式市場の期待を上回るROE水準の達成と持続的な成長により、PBR水準の改善を図る

ROE目標

2030年度**10%**の達成を目標に収益性と資産効率性に取り組む

全社ROEの目標達成に向け、

ROICを経営目標に組み込むことにより事業単位での収益性向上に取り組む

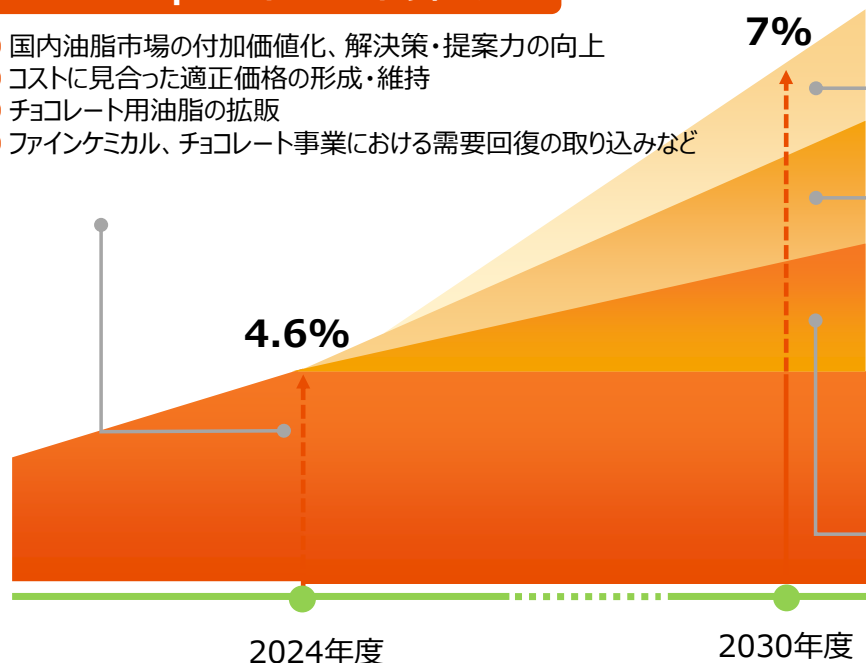


ROE10%達成を各事業領域の取り組みで推進するため、ROICは7%を目標値として設定

ROIC 7%の達成イメージ

Value Up+ 期間中の取り組み

- 国内油脂市場の付加価値化、解決策・提案力の向上
- コストに見合った適正価格の形成・維持
- チョコレート用油脂の拡販
- ファインケミカル、チョコレート事業における需要回復の取り込みなど



2030年に向けた取り組み

- **北米における新市場の開拓**
 KPI 売上拡大+500億円 ROIC10%
 - 食品原料における自然派志向、安全性、信頼性が重視される北米市場で、当社の技術面の強みを活かした複数分野の事業によるビジネスモデルを構築
 - 事業開拓に必要な規模の投資を実施
- **加工油脂・ファインケミカルにおけるグローバル市場での収益規模を拡大**
 KPI 営業利益成長率※ 6% ROIC 8%
 - チョコレート用油脂で世界トップクラスのポジションを確立
 - チョコレート用油脂の拡販と連携した、チョコレート事業の拡販戦略による収益規模拡大
 - ファインケミカル事業における成長市場での販売拡大
- **国内油脂における着実な成長と収益性向上**
 - 営業利益率6%を目標とした利益規模の拡大
 KPI 営業利益成長率※ 5% ROIC 5%
 - 当社独自技術を活かした油脂の提供価値の拡大とそれに合わせた新たな販売価格の形成
 - 新たな価値提案による継続的な市場創造と拡大

※ 営業利益成長率：2019年度～2030年度の年平均成長率（CAGR）

03

中期経営計画達成に向けた施策

2023年度業績予想

売上高	営業利益	ROE	ROIC
5,100 億円	205 億円	8.1 %	5.1 %

日清オイリオグループ° ビジョン2030

これまでより「**もっとお客様の近く**」でビジネスを展開し
グローバルトップレベルの油脂ソリューション企業へ大きな飛躍を遂げる

ROE **10** % ROIC **7** %

多様な共有価値の創造 (CSV)

2021年度

2024年度

2030年度

新中期経営計画
2021 - 2024年度
「Value Up +」

もっとお客様の近くで、
多様な価値を創造し続ける
企業グループに変革する

社会との共有価値の創造を
成長ドライバーに成長路線を加速する

2025 - 2030年度

油脂の価値向上の仕掛けにより国内家庭用市場を拡張

施策①

付加価値カテゴリーの更なる拡販

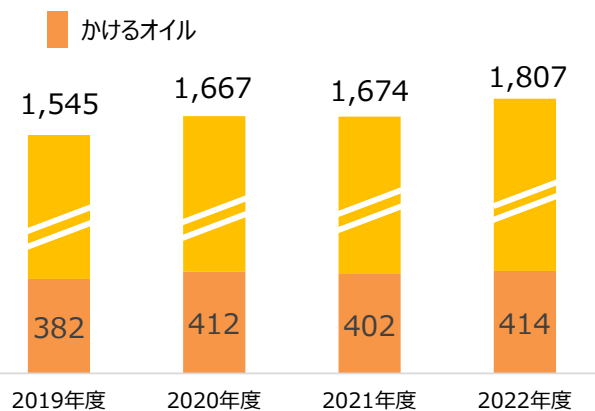
かけるオイルの更なる市場浸透化

- 油脂の健康機能の発信、マーケティング強化によりアマニ油などのサブリのオイル（健康オイル）への共感を促進し、市場拡大を図る
- 機能性表示食品「セサンプラス」の積極拡販等により、ごま油カテゴリーにおける存在感の維持拡大を継続

食卓に「おいしさ」を提供する、油脂の新たな市場創造

- 味つけオイルの「食卓への浸透」「話題性の向上」により新たな市場カテゴリーを確立

家庭用食用油市場規模(億円)



※インテージ社のSCIを基に集計

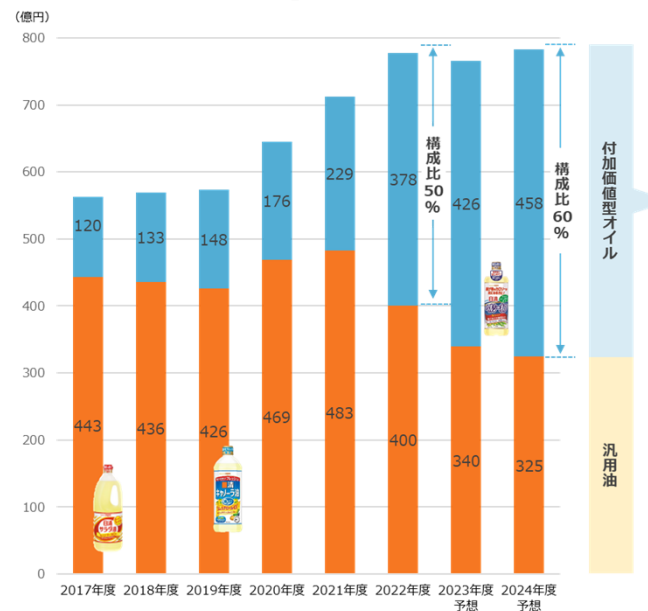


施策②

クッキングオイルの構造改革

消費者インサイトに基づくマーケティング・機能型商品へのシフト

- 少量使いという新しい価値を提供する商品「ハーフユース」シリーズの展開
- カテゴリーNo. 1 商品として「日清ヘルシーオフ」のポジションを確立
- クッキングオイルにおけるMCTの機能を活かした商品展開により健康オイル市場を活性化
- 「ヘルシークリア」で開封後もつくりたての油のおいしさが続くという新たな価値を提供



クッキングオイルも価値で選ぶ時代へ。

- 日清キャノーラ油ハーフユース
「少量使い」
- 日清MCTリセット
「体脂肪対策」
- 日清ヘルシーオフ
「カロリーを抑える」
- 日清ヘルシークリア
「鮮度長持ち サビないオイル」

商品機能とソリューションの強化でマーケットシェアを拡大

施策①

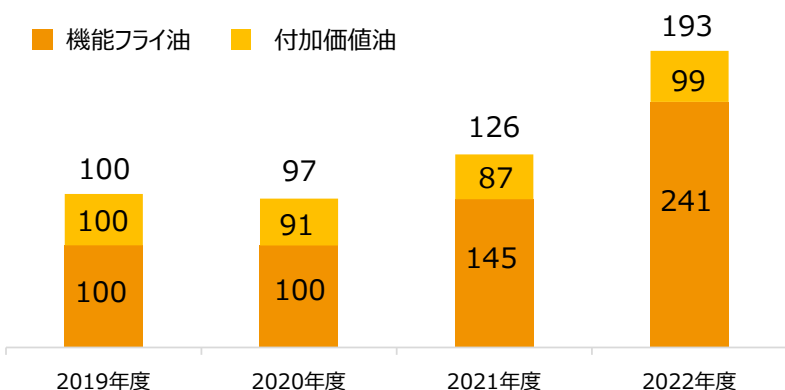
継続的な商品機能向上

課題解決や利便性向上など、新たな価値を付与する油脂の開発・拡販

- 長持ちや低吸油などの機能を付加したフライオイルや、誰でも均一においしく調理できる「素材のオイルシリーズ」などを拡販



業務用 機能フライ油、付加価値油の売上高推移



※2019年度を100とした場合の指数

施策②

顧客サポートによるソリューションの強化

顧客に対するサポート機能を活かし顧客と共に潜在的なニーズを発掘する営業の積極展開

- 中食や加工食品メーカーに向け、技術者が営業に同行して、顧客の課題や潜在的なニーズを把握、素材提案や当社技術を応用した解決策の提案を実施
- 技術者は開発・研究の場にニーズ等をフィードバックし、油脂等の開発に活かす

社会課題に対するソリューションの提案

フライヤーの温度管理や、揚げ種の扱い方など、実際に調理の現場で行っていただく運用の提案を、長持ち機能をもった油脂や、油の「劣化度」を測るための酸価測定試験紙、フライヤー専用洗剤などの「モノ」の提案と合わせて実施

油脂と運用にとどまらず、周辺領域も含めてトータルに提案することで、油脂をおいしく、安全に使用できる期間を最長にし、油の交換頻度の削減とともに、お客さまの人手不足対策やコスト上昇抑制にも貢献

社会の課題
人手不足・コスト上昇

日清オイリオの価値創造

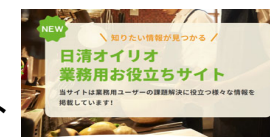
フライヤーまわりのトータル改善提案



使用できる期間を最長に

日清オイリオ業務用お役立ちサイト

業務用の課題解決をサポート



チョコレート用油脂の販売において世界トップグループ入りを果たす

施策

アジア、ヨーロッパ、北米をターゲットに油脂の加工技術や顧客サポート機能の発揮で、チョコレート市場の成長を取り込む

チョコレート用油脂のグローバル市場での販売拡大

- チョコレート用油脂拡販に必須となる生産能力増強の推進
- ISF Italy、ISF 上海やIADC（インドネシア）も含めた新規取引の開拓とグループ間の連携を強化
- ターゲット市場（アジア、ヨーロッパ、北米）拡大を見据えた拠点強化、事業戦略の検討
- 重点エリアでのグローバルな顧客サポート体制の構築

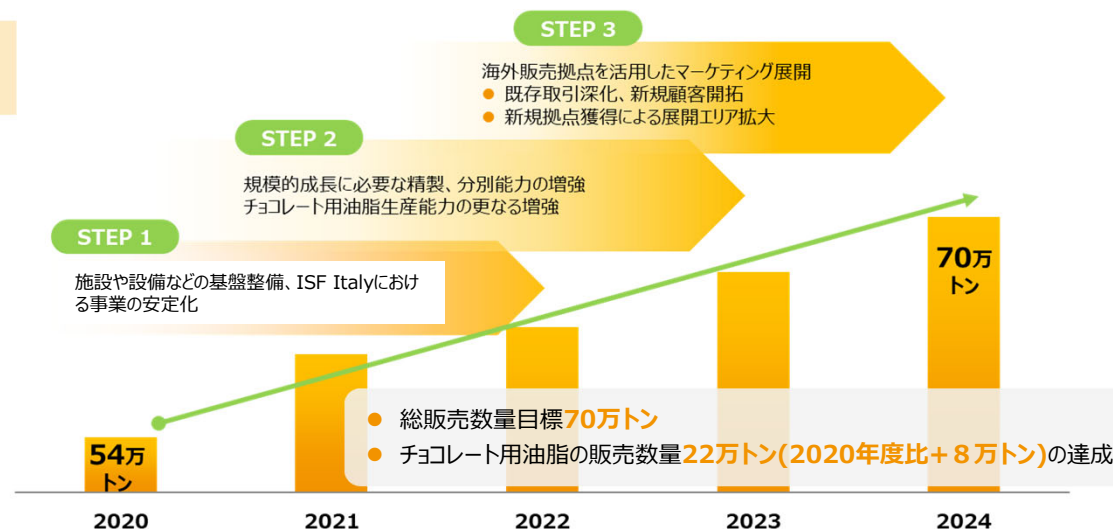
ISF マレーシア



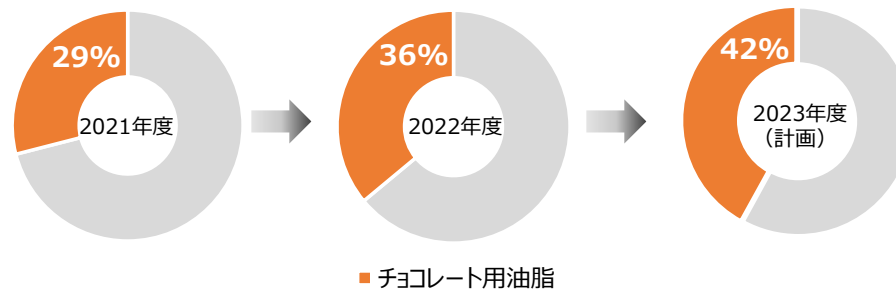
ISF イタリア



ISF 上海



海外加工油脂に占めるチョコレート用油脂の売上構成比



高品質・高機能な化粧品を実現する油脂技術で化粧品原料油脂のリーディングカンパニーになる

施策 アジアの化粧品市場の成長を取り込むとともに、化粧品原料油脂を中心としてさらにグローバル展開を加速する

高付加価値型のグローバル事業を拡大

- 中国拠点の顧客サポート体制の強化と活用、および日本や欧米で築いたブランド力を活用した東南アジア展開
- 技術的な問題や課題に対するサポート体制により化粧品原料油脂の潜在機能の発見、海外拠点とも連携したグローバルなソリューションビジネス展開
- 化粧品原料油脂の価値を高める自然由来の製品の開発と段階的な導入
- メイク領域からスキンケア、ヘアケア領域へターゲットを拡大

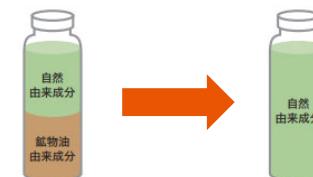
自然由来の製品の開発

化学的な肥料や農薬を極力使用しないオーガニック製品や自然を訴求した化粧品への世界的な関心が高まっています。自然派化粧品を求めめるお客さまの価値観を満たすため、また、CO2の排出を少しでも減らすために、ISOで定められた化粧品原料中の自然由来指数（製品の天然由来の要素を示す指標）を向上するための技術開発を推進

社会の課題
自然派化粧品への要求

日清オイリオの価値創造

自然由来成分の向上に向けた技術開発



IQL スペイン

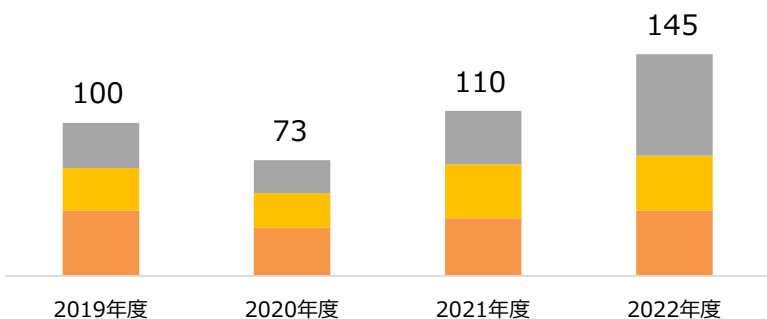


テクニカルセンター
神奈川県磯子

化粧品油剤 売上高

※2019年度を100とした場合の指数

■ 国内 ■ アジア ■ 米国・欧州その他



家庭用の強みを活かした新たな市場開拓を推進

MCT (中鎖脂肪酸) とは

特徴 体内で素早く分解されエネルギーになりやすい

中鎖脂肪酸

ココナッツ・パームフルーツ・母乳・牛乳に含有



すぐにエネルギーとして効率良く利用

長鎖脂肪酸

大豆油・なたね油など通常の植物油に含有



体に貯蔵された後、エネルギーとして利用

出典：Dietary Fat Requirements in Health and Development, AOCs(1988), Edited by Joyce Beare-Rogers

ターゲット① 体脂肪の燃焼について

国内で脂肪燃焼体質化を主導し、機能性素材のターゲット市場に対し、MCTでの脂肪燃焼体質化のムーブメントを起こす



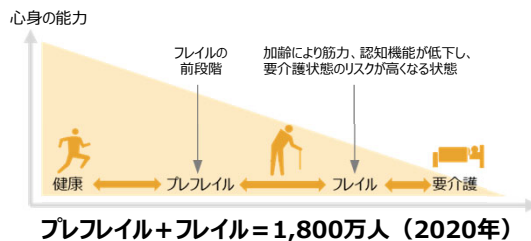
脂肪の減少・燃焼

生活習慣病（肥満、糖尿病等）の予防（過栄養の予防）

ターゲット② 低栄養の改善

油脂の機能を活かし、国内におけるフレイル(健康と要介護の間)の状態とプレフレイル(フレイルの前段階)の課題に食での貢献を果たす

高齢者の増加とともに、フレイル・プレフレイル対策の必要性が高まる



施策①

MCTのブランド力強化と加工食品へ機能を付加する素材としてのマーケティングの実践

食用油カテゴリーにおけるMCTの存在感拡大

- 機能性表示を活用した商品力強化や新商品の上市、コミュニケーション活動と連携した拡販等により食用油カテゴリーにおけるMCTの市場規模を拡大

加工食品市場においてMCTを機能素材として浸透化、使用量を拡大

- 加工食品メーカー向けのアプローチを精力的に展開、商品化の実績積み上げと流通へのフォローにより、業務用・加工用での使用量を大幅に拡大する

施策②

業務用・加工用領域での新たなマーケティング機能を発揮する仕掛けづくり

フレイル・プレフレイル市場への展開も見据えた新たなマーケティングの展開

医療・介護従事者向け専門情報に特化した「日清オイリオメディカルサポートサイト」を活用、MCTを中心とした脂質栄養の総合提案や医療・介護従事者の問題や課題を理解し、それらを解決または軽減する課題解決型コンテンツの拡充、低栄養からフレイルに至るストーリー展開などにより、顧客の興味を引き寄せる新たなマーケティングを展開



MCTの売上高 (百万円)



脱炭素社会の実現に向けた取り組み

2050年のカーボンニュートラル^{※1}を目指し、その実現に向けて環境にやさしい開発の推進や、様々な脱炭素化施策を継続的に実施。特に早期に Hydrogen Ready^{※2}を確立することを重要施策と位置付けている。

施策

水素活用でカーボンニュートラル^{※1}の実現を推進

高効率ガスタービンコージェネレーション^{※3}設備の導入を決定

- 当社とJFEエンジニアリング株式会社は水素エネルギーの活用を見据え、先駆的かつ高効率な水素混焼対応型 8MW級コージェネレーション設備^{※4}を日清オイリオ横浜磯子事業場へ新規導入することに合意
- 水素供給網の整備状況を踏まえつつ、2027年以降、混焼率^{※5} 30%を当面の目標に本コージェネレーション設備設備で水素をエネルギー源として活用することを目指す

これまでの取り組み

当社は2017年からJFEエンジニアリング株式会社が提供する他拠点一括エネルギーサービス「JFE-METS」^{※6}を導入することで、全国の生産拠点のエネルギー調達から供給までを最適化し、大幅なCO2排出量削減を実現（グループ全体で2016年度比△8.6%）

- ※1 温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること
- ※2 水素供給がインフラ整備され次第、速やかに水素利用可能な状態
- ※3 エネルギーの効率的な利用を促進するための電力発生および熱エネルギー供給の統合システム
- ※4 都市ガス等を利用して発電し、発電時に生じる熱を活用することでエネルギーを無駄なく利用できるシステム
- ※5 瞬時燃料流量（m³/h）に対する水素の混合体積割合
- ※6 JFE-METS： <https://www.jfe-eng.co.jp/products/power/ele04.html>
2019年度省エネ大賞受賞（2020年1月30日公表）

施策

環境にやさしい開発の推進

再生ペット樹脂の食用油容器への利用拡大

- プラスチック容器の軽量化や、分別しやすいラベル・キャップフィルムの開発
- 家庭用の主力製品（1000gポリボトル）に環境対応素材のバイオポリエチレンを導入

～2021年

2022年

再生プラ導入

600gペットボトル、400gペットボトルの容器の一部に再生ペット樹脂の仕様を開始

バイオプラ導入

2022年11月より、1000gポリボトルのボトルの一部に環境対応素材のバイオポリエチレン（植物などの再生可能な有機資源を原料とするプラスチック素材）の使用開始



環境対応商品を充実

- 環境配慮と使いやすさを両立した紙パック容器の食用油を発売
- 長持ち油や1/2量で調理できるハーフユースなどの環境にやさしい商品も充実

1/2量で調理できる商品を発売

いつもの1/2の量で調理ができるハーフユースを発売。調理時間短縮で、CO2排出を削減でき、廃油も少ない環境にやさしい商品



サステナビリティ

サプライチェーン

持続可能性に配慮したパーム油の調達

東南アジアが主産地のパーム油は、加工食品をはじめ幅広い用途で使われている植物油。一方で熱帯林減少の大きな要因の1つとなっており、当社は「パーム油調達方針」に基づき、サプライチェーン全体における社会・環境課題に取り組んでいる。また、パーム農園トレーサビリティ 100%を実現・継続するための実効性のある取り組みも展開。

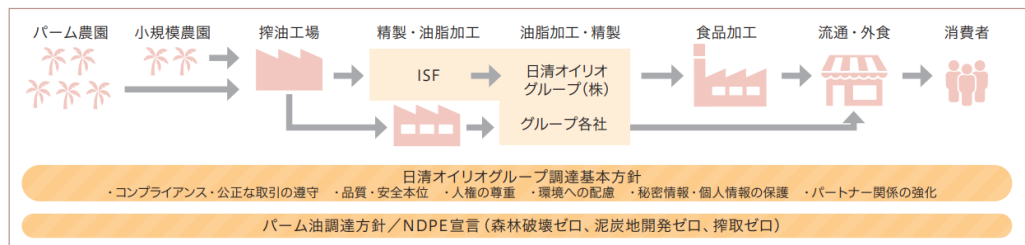
施策

持続可能な調達と人権尊重の取り組みの推進

持続可能な調達の取り組み

- 2012年からRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟
- 2018年には「パーム油調達方針」を策定し、NDPE宣言（森林破壊ゼロ、泥炭地における新規開発ゼロ、先住民・労働者からの搾取ゼロ）に賛同
- 2019年にはアクションプランを策定し、①持続可能性に配慮したパーム油調達の実施、②サプライチェーンの改善、③透明性の確保、④社員のサステナビリティ意識向上などの取り組みを推進

パーム油のサプライチェーン



トレーサビリティの重要性

サプライチェーンにおけるトレーサビリティを把握する過程でサプライヤーの状況、サプライチェーン内の社会・環境リスクをより詳しく認識し、そのリスクを軽減するための施策を講じることができるようになる。子会社ISF（マレーシア）では、2025年までに、パーム油およびパーム核油の農園までのトレーサビリティ100%達成を目標としている。

人権尊重の取り組み

- 2022年3月に国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を基本とした「日清オイリオグループ人権方針」を策定
- 2022年度は、企業活動における人権リスクを抑える取り組みである人権デュー・ディリジェンスにおいて以下の活動を実施
 - 自社グループで自己評価アンケートを実施、第三者と当社グループの人権リスク特定に着手
 - 顧客、NGOと協働しパーム農園の労働慣行や採用実態の調査を実施



パーム農園実査の様子



パーム椰子

04

APPENDIX

会社概要

会社名	日清オイリオグループ株式会社 (The Nisshin Oillio Group, Ltd.)
本社所在地	東京都中央区新川一丁目23番1号
設立年月日	1907年3月7日 (日清豆粕製造株式会社)
代表者	久野 貴久
資本金	16,332百万円 (2023年3月31日現在)
売上高	5,565億65百万円 (2023年3月期・連結)
事業内容	油脂事業、加工食品・素材事業、ファインケミカル事業 等
従業員数	3,001名 (2023年3月31日現在)
グループ会社	子会社24社、関連会社13社、その他関係会社1社
発行済株式総数	33,716,257株 (2023年3月31日現在)
決算期	3月31日
上場証券取引所	東証プライム (証券コード: 2602)

主要グループ会社 (国内)

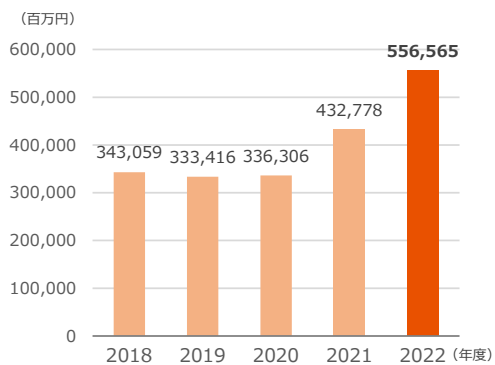
セッツ株式会社	日清ファイナンス株式会社
日清商事株式会社	株式会社ゴルフジョイ
日清物流株式会社	日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社
株式会社NSP	株式会社ピエトロ
大東カカオ株式会社	和弘食品株式会社
株式会社日清商会	幸商事株式会社
株式会社マーケティングフォースジャパン	

主要グループ会社 (海外)

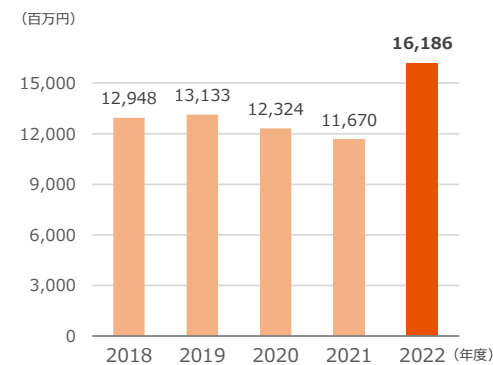
上海日清油脂有限公司
日清奥利友(中国)投資有限公司
日清奥利友(上海)国際貿易有限公司
Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd.
Industrial Quimica Lasem,S.A.U.
T.&C. Manufacturing Co., Pte. Ltd.
PT Indoagri Daitocacao
Intercontinental Specialty Fats (Shanghai) Co., Ltd.
Intercontinental Specialty Fats (Italy) S.r.l.
中糧日清 (大連) 有限公司
統清股份有限公司
張家港統清食品有限公司

財務データ

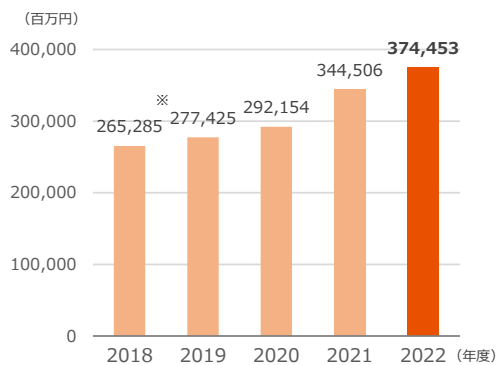
売上高



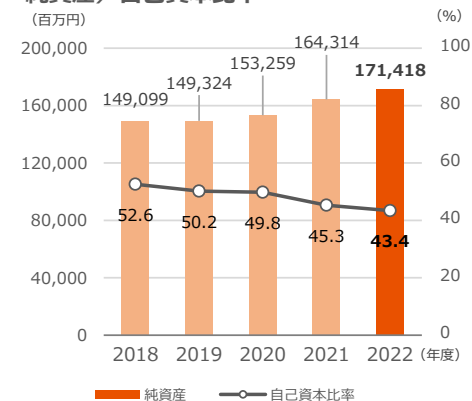
営業利益



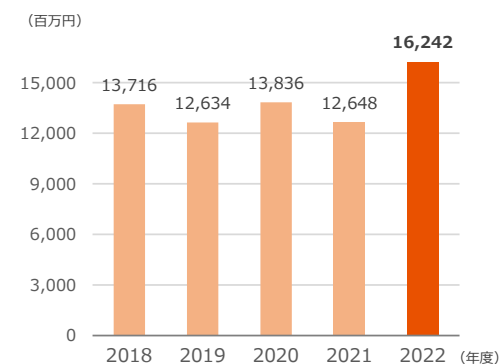
総資産



純資産／自己資本比率



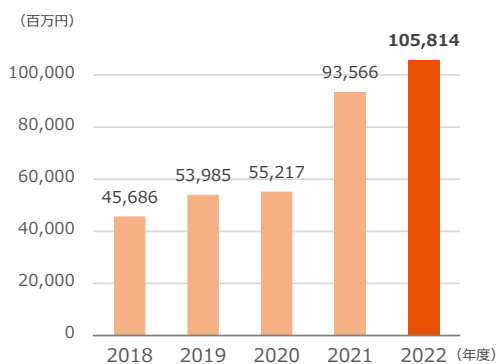
経常利益



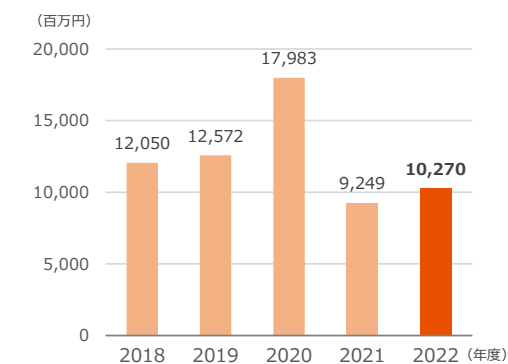
親会社株主に帰属する当期純利益／株主資本利益率 (ROE)



有利子負債

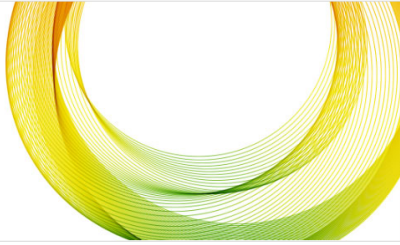


設備投資額



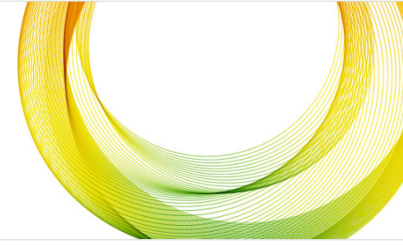
ご案内 IR関連資料

日清オイリオグループ
ビジョン2030
Vision2030



<https://www.nisshin-oillio.com/company/corporate/vision2030/>

中期経営計画
Value Up+



<https://www.nisshin-oillio.com/company/corporate/valueup/>



<https://www.nisshin-oillio.com/company/sustainability/report/>

株主・投資家情報
Investor Relations

日清オイリオIR HOME | 企業情報サイト | 株主・投資家情報

最新のIR資料

- 2023年度(2024年3月期)第154期株主総会報告書 主な要約(確定)
- 2024年3月期 第155期決算短信(日本企業)(確定)
- 2024年3月期 第155期決算短信(海外)

株価情報

2023年9月11日
終値
¥4,190 -¥15.64%

07/01 08/01 09/01

トップメッセージ **ビジョン2030・中期経営計画** **報告書ライブラリー**

「植物のチカラ」を核とした社会と企業との多様な価値創造を推進し、持続可能な成長を実現し、株主の利益を最大化することを目的として「統合報告書」を発行しています。

植物のチカラを核とした社会と企業との多様な価値創造を推進し、持続可能な成長を実現し、株主の利益を最大化することを目的として「統合報告書」を発行しています。

植物のチカラを核とした社会と企業との多様な価値創造を推進し、持続可能な成長を実現し、株主の利益を最大化することを目的として「統合報告書」を発行しています。

IRニュース **IRカレンダー**

2022.08.14 有価証券届出書・第153期第153期決算報告書 (PDF: 159KB)

2023.08.10 2023年度(2024年3月期) 第154期株主総会報告書 主な要約(確定) (PDF: 433KB)

2023.08.09 議決案 (議事案の経過) 日清オイリオグループ株式会社と株式会社「オイルズ」 共同出資分割 (業務分割) の実施が決定に関するお知らせ (PDF: 119KB)

2023.08.09 決算短信 2024年3月期 第154期決算短信 (日本企業) (確定) (PDF: 452KB)

2023.08.09 決算短信 2024年3月期 第154期決算短信(海外) (PDF: 1779KB)

ライブラリー

決算短信や決算・株主総会などで使用する資料・動画、統合報告書など企業分析に必要な資料を掲載しています。

投資家向け情報

- 決算短信資料・動画
- 有価証券届出書
- 株主総会報告書/サステナビリティデータ集
- リスケマシメント

株主向け情報

- 株主総会
- 株主総会
- 株主総会
- 株主総会

株主総会

- 株主総会
- 株主総会
- 株主総会
- 株主総会

株主総会

- 株主総会
- 株主総会
- 株主総会
- 株主総会



<https://www.nisshin-oillio.com/inv/>